

平成 24 年 6 月 22 日

高大接続型京大方式特色入試の一部導入に向けた検討の開始について

京都大学総長 松本 紘

平成 24 年 6 月 4 日付の文部科学大臣による「社会の期待に応える教育改革の推進」ならびに文部科学省による「大学改革実行プラン」に指摘されるまでもなく、高校教育と大学における教育がうまく接続していることは、大学入試が高校教育に多大な影響を与えてきただけでなく、大学における教養教育、外国語教育ならびに専門基礎及び専門教育が高校教育の積み上げを前提としていることからわかるように、双方の教育の充実と教育目標の実現に大変重要である。このような高大接続の発展は、社会の各界からの要請が強い「国際展開を担えるグローバル人材」養成における太い幹である、幅広い豊かな教養力・俯瞰力、外国語運用力、優れた専門力を三位一体的に育成する上での基盤であり、国の人材育成上も極めて重要であると言えよう。

一方、今日の日本における大学と初等中等学校との関わりを見ると、第 2 の学習指導要領ともいわれるようになった大学入試への受験準備に高校生や教育関係機関が注力するあまり、受験技術競争の激化や低年齢化等、社会的歪ともいえる状況が顕在化するに至っている。本学のような研究型大学をはじめとして多くの大学では、入学者の決定の客観的手段として、ペーパーテストによる選抜方法に比重を置く仕組みを採用している。このような方法は、初等中等教育における学力向上に意義を持つこと自体は否定されるべきではないが、入試で高得点をとることのみに特化した外発的動機に基づく受動的学びは、本学のような研究型大学が重視している「自ら課題を発見し、チャレンジする」という自発的・能動的な学びとは異なるものであり、受験準備教育が浸透すればするほど、大学教育における人材育成の目標との乖離が進むという負の循環が懸念される。

本学では、このような問題を是正していくために、(平成 18 年以来) 高等学校における幅広い学びと接続した入学試験制度のあり方について検討を重ねてきた。この度、総長諮問の入学試験検討タスクフォース(以下、「タスクフォース」という。)等において、「高等学校における幅広い学習との接続及び受験者の志の喚起ならびに各学部のアドミッションポリシーとディプロマポリシーに則った京大方式特色入試(以下、「特色入試」という。)の導入」に関して検討結果がまとめられ、各学部においても、それぞれに適した特色入試導入の可能性について検討が開始されつつある。

本学としては、国際化社会におけるグローバル人材の育成の要とも言える初等中等教育と大学教育との接続を契機に、入試改革をばねとした教育改革に今後とも取り組む所存である。